

1. 単元名：カレンダー！作って！売って！忘年会！

2. 単元概要

図工を中心に、国語、算数等の各教科等の力が結集される定番単元である。木版画、紙版画、粘土版画、パソコンでデザイン・印字、絵柄部分は版画だけでなく、一般的な描画、スタンプング、ブラッシング、アクションペインティング、貼り絵…等、さらには、手漉き和紙を素材にした味わい深いカレンダーも可能である。子どもに応じた様々な技法を駆使して、個性豊かなオリジナルカレンダーをたくさん制作し販売する。

単元冒頭では、学校や家庭で使っているカレンダーをタブレットで写真に収めたり、実物を見たりした。また、四季折々の思い出を語り合い、各月の絵柄のおおよそのイメージを共有した。子どもが得意とする制作方法で取り組むことになるが、単元期間が長いこともあり複数の制作方法にチャレンジすることも可能にした。前年度は同じカレンダーを協働して大量生産したが、今年度は子どもたちの強い希望で、3種類を共同制作することになった。販売品であるため、クオリティーの高いカレンダーを量産して、希望する保護者・先生方に販売する。10月からスタートし、カレンダーの売上金で年忘れ忘年会を12月中旬にする大単元である。

3. 単元目標

- ①子どもに応じた制作方法で、各月の絵柄を制作する。(知・技)
- ②季節・各月の雰囲気イメージを描いたり、出来映えを意識したりしてたくさんのカレンダーを制作する。(思・判・表)
- ③友達や教師と制作過程を交流し合いながら、より質の高いカレンダーを意欲的に制作する。(学)

4. 単元の日程計画

午前(10時～11時30分)	午後(13時30分～14時15分)
①様々なカレンダーやその制作方法を知る。 各季節・月の思い出やイメージを共有する。	①販売用チラシ・ポスターの制作・掲示
②子どもと相談して制作方法／分担を決定して、 担当工程の作業を繰り返す。	②注文書やメッセージカードの制作
③各学級等に届ける→売上金の計算	③ラッピング袋へのデコレーション
④年忘れ忘年会	④完成品をメッセージカードとともにラッピングする。
	⑤忘年会の企画検討・準備

5. ポイント解説

- ①カレンダー作りには図工を中心に算数、国語、社会等の各教科等が包括され、販売することにより豊かな活動として展開される－昭和の時代から継承される一定番の生活単元学習である。定番・鉄板単元、毎年、展開される単元であるため子どもの主体性が発揮されやすい大きな特徴がある。
- ②地域によっては、10月に入ると小・中学校全ての特別支援学級で「カレンダー作り」を展開する。全て売りさばいた12月中旬には中学校に学区内の小学校特別支援学級の子どもと教師が集まる。売上高を競う、出来映えを相互評価する、制作方法を共有する(＝教師にとっても研修の機会)、卒業した先輩に会える…等、子どもたちにとってインパクトのある生活目標になっている。
- ③単元の中心は制作である。子どもの希望を踏まえて制作方法を検討し、さらに補助具等の支援を組み合わせて2ヶ月間トコトン働ける「できる状況」を整える。